



株式会社ヒロハマ 社内報

<経営理念>

- 一、缶パーツとその関連技術を通じて、缶の社会貢献を全面的に支援しよう
- 一、一人一人の持つすべての能力を、共にベストの形で花開かせよう
- 一、現場で現物を見て現実を把握し、原理原則にのっとって対処しよう
- 一、お客様と我々自身に還元するために、一切のムリ・ムダ・ムラを無くして最大の利益を追求しよう
- 一、国内外を問わず、自らの可能性を追求し、仕事を通じて社会に貢献しよう

6月迄業績	計 画	実 績	差 異	%	昨 年 比	%	12 月 迄 成 行 き	昨 年 度 実 績
売 上	230,183	229,042	-1,141	99.5%	14,906	107.0%	473,808 万円	443,782 万円
営業利益	10,461	20,407	9,946	236.6%	14,656	354.8%	38,410(8.11%)	15,200(3.43%)

<売上は僅か未達で折り返し／営業利益は半期で2億円到達>

7 月も終わりを迎え、8 月に入りますが酷暑が長らく続いています。身体に変調を覚えたときは躊躇せず一旦作業を止め、水分補給、涼める場所で休む、などの措置を行ってください。

さて、ヒロハマでは 6 月までの業績がまとまり、上半期の結果が出ました。まず、売上は対計画 99.5%で折り返しとなり、数量が微減傾向の中で健闘と言って良いと思います。営業利益では対計画 236.6%。2 億円を超えました。昨年の耐え忍んだ業績から一転、今期はこれまで取り組んだ結果が業績として開花しています。

下期は鬼門の 8 月を乗り越え、全社の力を結集させ、4 事業所黒字で有終の美を飾りたいと思います。

【全社品質目標の達成状況】

安全第一 労災事故 0 件：6 月度 1 件。(先月既報の通り)
残念ながら上期で累計 3 件の計上となりました。下期はゼロ必達を目指します。

品質クレーム：6 月度 は全社ゼロでしたが、全社年間 20 件以内に対し、累計 10 件。千葉 8 件(社内 1 件、社外 7 件)、大阪 2 件(社内 0 件、社外 2 件)東西ともに、社内製造品の品質レベルが光ります。

納期遅れ：なし(上期なし)

コストダウン：6 月迄累計 計画 2820⇒実績 4045(143%)

新規品売上：6 月迄累計 東営 4071⇒3349(82%)
大営 839⇒1455(173%) ※万円

稼働率：6 月迄累計 千工 目標 81% ⇒ 実績 80.4%
大工 目標 80% ⇒ 実績 80.5%

6月単月 単位:万円	売 上		営業利益		営業利益累計	
	計 画	実 績	計 画	実 績	計 画	実 績
東京営業所	24,759	24,573	1,184	1,483	6,936	7,997
千葉工場	21,687	21,587	344	1,600	1,920	7,294
大阪営業所	13,659	14,795	342	585	2,096	3,333
大阪工場	11,319	12,575	-82	154	-491	1,783
全 社	38,418	39,368	1,788	3,822	10,461	20,407

<8月予定>

- 8 月 8 日(金) 夏季休暇前社長・会長挨拶
東京都躍進的設備投資助成金二次審査
(千工マシニングセンタ更新)
- 8 月 11 日(月) 山の日 祝日
- 8 月 12 日～15 日 夏季休暇(8/12・13 一斉有給休暇含)
- 8 月 18 日(月) 東京千葉昼礼・三咲神明宮月次祭・
東京千葉生販合同会議
- 8 月 19 日(火) 大阪昼礼・大阪生販合同会議
- 8 月 21 日(木) アルトップ月次会議(会長・社長行)
- 8 月 26 日(火) PS 八街経営会議
- ※予定を変更する場合がありますのでご了承ください。

7/31 廣 濱 庄一郎

「失敗学」から学ぶ>(10)

【(4)ミスを通して「計画力」をつける方法】(4)

5)「計画外」に振り回されない 2 つのポイント

「計画外作業発生」「計画外外乱」の 2 項目は、基本的に起こったことにその都度、対応していくしかありません。しかし、それがなるべく起こらないように、あるいは起こってしまったときにもなるべくその影響を小さくできるように、事前に策を練っておくことは可能です。

①その発生をいち早く知るために

「計画外」の出来事に、チームのメンバーの個人的事情が関わってくることは多くあります。

職場のメンバー間の距離が広がるほど、計画外の事象の発覚は遅れ、その対応策も後手に回らざるを得なくなってしまいます。

今後、ダイバーシティ化やリモートワーク化が進めば、それこそ仕事仲間の顔さえ知らないということになるかもしれません。どうやって、仕事仲間との心の連携を形成するかの新しい工夫が、これからの職場には、いや、今すでにどの職場にも必要なかもしれません。

②「計画外」を予定に入れる

何かの計画を立てるとき、私たちは当然、「計画外」のことは考えません。しかし「計画外をうまく計画に盛り込む」ことで、うまく回している組織をご紹介します。アメリカのボーイング社——ヨーロッパのエアバス社と並ぶ、世界最大の大規模旅客機メーカーです。

ボーイング社が新しい機種を開発する際には、その計画を立てる段階で、予算の 10%程度を「いまだ誰も体験したことのない不具合が起こったときに対応するため」に確保しています。彼らは、航空機を開発するうえで、必ず何かしらの計画外が起こることを織り込んでいる、というわけです。

しかもその数字は、単なるあてずっぽうではありません。実は彼らは、過去数十年にわたり、従業員の仕事を分単位で管理しています。「その人が、その日、何分間その作業に従事したか」を記録し、蓄積しているのです。その蓄積によって、これまでの開発でどのくらい「計画外」のことが起きたかを統計的にとらえ、新しいプロジェクトの計画にもその数字を組み込むことができる、という構造です。

製品研究所では、毎年 52 週課題の達成度が 95%以上となっていますが、その秘訣の一端は上記の「必ず何かしらの計画外が起こることを織り込んでいる」ことにあります。

計画を立てるときに、ある程度スケジュールに余裕をもった形で作成する。そして特に計画外の出来事が無ければ、早め早めに予定を消化しておく。そうすることで、例えばお客様からの急な試験依頼が入っても最優先で対応することができる、というわけです。

また、いろいろな仕事の工数管理・記録がなされていることも必須事項で、それがあからこそ明確に「余裕を持った形」と言うことができます。

7/31 廣 濱 泰久